東京大学フューチャーファカルティプログラムシラバス (第 6 期版)

科目名	大学教育開発論
英科目名	Teaching Development in Higher Education
講義題目	「学生が学ぶ授業」を学ぶ
担当教員	栗田佳代子・中原淳
他研究科との合併	大学院共通科目
繰り返し履修の可否	不可
他研究科生履修の可否	可

授業の概要

現在，大学教員としてのキャリアを進むにあたっては，研究者としてだけでなく，教育者としての資質が問われています．本授業は，東京大学フューチャーファカルティプログラムのメインコンテンツとして，学生が主体的に学ぶために必要な学生のモチベーションの理解，教員の授業におけるコミュニケーションスキル，授業デザインやシラバス，評価方法などをはじめとした教育力の向上を目指し，実践的に学びます．また，アクティブ・ラーニングの手法を取り入れたグループワークを多く経験し，多様な研究科から集う仲間と学び合い，専門領域を超えたネットワークを培います．そして，大学教員というキャリアパスについても考えます．

目的と目標

（目的）

未来の大学教員として，教育の責務の重要性を認識し，学生の立場にたった教育の設計と実行を可能にするために，授業実施に向けた実践的な知識やスキルを多様な専門領域の受講生とともに学び合いながら，獲得する．さらに，教育についても探究し続ける姿勢を身につける．

（目標）

- ✧ 高等教育の現状の概要について説明できる
- ✧ デリバリースキルの観点を知り，自分のスキルの向上につなげる
- ✧ 学生が主体的に学べるデザイン（コース，クラス）ができる
- ✧ 評価の基礎知識をふまえた評価をデザインできる
- ✧ 学んだ知識を模擬授業に活用し実施できる
- ✧ キャリアパスについて考え，日頃の活動や今後の展望について整理できる
- ✧ グループワークを円滑に行えるコミュニケーション力をつける

キーワード

東京大学フューチャーファカルティプログラム　大学教員としてのキャリア　シラバス作成　クラスデザイン　評価　ルーブリック　教育改善　ポートフォリオ

授業の方法

本授業では，講義スタイルの他に，アクティブ・ラーニングの実際の方法を体験的に学ぶことを目的として，グループワークやペアワークをはじめとする相互学習形式を多く取り入れますので，積極的な授業参加が求められる授業です．また，実践性を重視するため，実際に授業デザインやシラバス作成，などの課題への取り組みを通して学びます．

１授業計画

授業は原則下記にしたがって，進みます．変更がある場合には予めお知らせします．また，各内容の関係については，本シラバス末の「本プログラムの構成」をご覧下さい．

項目 日程	内容	この日に出る課題 （〆切日）
プレ WS 木:10/8 金:10/9	プレワークショップ プレワークショップでは，大学および大学教員のあり方の変化，学生の多様化，質保証など高等教育の現状について広く知ると同時に，ワークを通して，大学教員としてのキャリアを考えます．	研究紹介の設計（次回授業）
第 1 日 木:10/15 金:10/16	1 自己紹介と初回の授業 本授業の理念を理解し，受講生が学び獲得することを期待される知識・技能および授業方針について知ります．「教員としての各自の 1 分間研究紹介」の実践と相互評価を通して，受講者相互の連携を高め，学ぶ環境を整えます． 演習：1 分間研究紹介と相互評価 2 モチベーションとアクティブ・ラーニング 学生の主体的な学習が『実る』ために不可欠なモチベーションについてケース・スタディを通して理解します．学習者主体の授業方法として注目を集めているアクティブ・ラーニングの複数の手法を体験を通して学びます．	研究紹介のふりかえり(1w 後) シラバス案作成（次回授業）
第 2 日 木:10/29 金:10/30	3,4 コースデザイン（シラバス） シラバスの基本的構成を知り，作成の目的と役割の重要性について理解します． 自身の専門についての初年次教育を担当すると仮定したシラバスを作成します．また，特に授業の構造化に役立つグラフィックシラバスに取り組みます． 演習：シラバスのブラッシュアップとグラフィックシラバスの作成	シラバスの完成 (4w 後) グラフィックシラバス(4w 後)
第 3 日 木:11/19 金:11/20	5,6 クラスデザイン 授業設計の基礎を学びつつ，構成の指針や観点も踏まえて，自身が設定した授業科目の一コマを設計します． 前回の学習内容に加えて，多様な教授方法を学びながら、引き続き授業案作成を行います． 演習：クラスデザインシートの作成	授業デザインシート完成 (2w 後)
第 4 日 木:12/3 金:12/4	7,8 評価 授業における評価の方法や意義について理解します． レポート課題等の評価に役立つルーブリックを作成します． 演習：ルーブリックによる採点とルーブリックの作成，およびディスカッション	
第 5 日 木:12/17 金:12/18	9 これまでの振り返り これまでの授業全体を通した振り返りを行い学んだこと等について共有します． 演習：ポスターツアー 10 マイクロティーチング ～計画～ 短時間の授業を設計し，授業を展開するための準備を行います．グループで与えられた学際的なトピックに関する授業を設計します． 演習：模擬授業デザイン	模擬授業のデザイン（次回授業）

第 6 日 木:1/7 金:1/8	11,12 マイクロティーチング ～実施(1)と改善～ 　各グループ内で模擬授業の演習を行います．メンバー同士で議論を重ねつつ，授業デザインや教授方法について学びを深めながら，模擬授業の改善をはかります． 　演習：模擬授業トライアルとブラッシュアップ	模擬授業の改善（次回授業）
第 7 日 木:1/21 金:1/22	13,14 マイクロティーチング ～実施(2)～ 模擬授業を実施する． 演習：模擬授業実施と相互評価	模擬授業の振り返り（次回授業）
ポスト WS 木:2/4 金:2/5	ポストワークショップ 自分の教育・研究活動についてふりかえって俯瞰し，大学教員としてのキャリアパスを展望する． 演習：ポートフォリオ・チャート作成	

成績評価方法

授業への参加状況 25%
課題の提出状況および質的評価 75%

（内訳）100 点満点とした場合の各配点
授業の参加状況　25
　　個人ワークへの取り組み 10
　　グループワークへの貢献 15

課題の提出状況および質的評価 75
　　自己紹介の実施　　5
　　自己紹介の振り返り　5
　　シラバス・グラフィックシラバス 20
　　クラスデザイン 15
　　模擬授業 25
　　模擬授業の振り返り 5

＊ 授業の参加状況については，基本的な受講態度を考慮します．プログラムを授業に集中し，真面目に取り組んでいる姿勢を高く評価します．授業中に他用を行う，グループワークの進行を妨げる，加わらない，などの態度が見られる場合に減点とします．

各課題の目的と採点基準

自己紹介の実施 5%
教員視点からの自己紹介の実践を行い，初回講義時の自己紹介の意義と重要性を実感する
採点基準：自己紹介の構成，デリバリースキル

自己紹介の振り返り　　5%
他者評価および自分の動画をみて，自身の客観評価を行う
採点基準：自身の特徴の把握，改善点への気付き，他者から学んだことの記述

シラバス・グラフィックシラバス 20%
授業内容をふまえ，学生の学びを促進するようなシラバスを作成する
採点基準：http://trc.virginia.edu/wp-content/uploads/2014/05/Syllabus-Rubric-Guide-11-24-14.pdf

クラスデザイン 15%
90 分のクラスを学習目標が達成できるように構成し，実行可能な形式でデザインする
採点基準：目標の設定と内容の整合性，導入・展開・まとめの構成，
　　学生が主体的に学ぶ工夫（ワーク，双方向性），実行可能性

模擬授業 25%
これまで学んだことをとりいれて，自分の専門について初年次教育を想定した 6 分間の授業を実施する
採点基準：目標の設定と内容の整合性，導入・展開・まとめの構成，

学生が主体的に学ぶ工夫（ワーク，双方向性），デリバリー

模擬授業の振り返り 5%

他者評価および自分の動画をみて，自身の客観評価を行う

採点基準：自身の特徴の把握，改善点への気付き，他者から学んだことの記述

教科書

教科書は特に定めません．配布資料によって授業を進めますので，２穴のバインダ(3cm 程度)を用意して下さい．

参考書

参考書・リーディングリストについては適宜指示しますが，代表的なものを下記に示します．

バーバラ・グロス・デイビス著 香取草之助監訳、光澤舜明、安岡高志、吉川政夫訳 (2002)授業の道具箱　東海大学出版会

“良い授業”をどうやって実施するかについて書かれた 定番といっても良い本です．

夏目達也・近田政博・中井俊樹・齋藤芳子 (2010)『大学教員準備講座』玉川大学出版部

授業の他，タイトルの通り，大学教員になるための準備になるような知識やスキルが説明されています．

佐藤浩章編 (2010)『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部

授業方法とそのデザインについて，わかりやすく実践的な内容がまとめられています．

スーザン・A・アンブローズほか著　栗田佳代子訳 (2014) 大学における「学びの場」づくり：よりよいティーチングのための七つの原理 玉川大学出版部

モチベーションやフィードバックなど，研究の知見に基づいた理論の解説と具体的な適用方法について解説された良書です．

履修条件

前提知識は特に必要としない。受講資格があるのは本学の正規大学院生のみである。

履修上の注意

（受講ルール）

- プレワークショップおよびポストワークショップを含め，基本的に全ての講義に出席してください．4 コマ(2 日間)を超えて休んだ場合はいかなる理由でも不可とします．
- 欠席の場合には授業日午前 9 時までに欠席届を予め提出すること．無断欠席の場合には，減点の対象とします
  https://docs.google.com/forms/d/13nKF8uajw-_HBct6yIoHwZdDvQ1DSQdq3myB08adnN0/viewform?usp=send_form
- 欠席した当日の資料は，サイボウズ live にアップロードされているので，それをダウンロードしキャッチアップをしてください．欠席者には別途課題を指示します．
- 連絡事項はすべてサイボウズ live 上で行います．プレワークショップまでにグループへの招待を行いますので，各自登録手続きをしてください．

（受講者決定方法）

履修希望者が多数の場合は，原則的に申込フォームの記載項目による選考を行います．

申込フォームの記載事項については，博士課程在籍者，日本学術振興会の特別研究員を優先しますが，研究科のバランスを考慮する場合があります．また，申込フォームの研究紹介について「専門領域外の人にわかりやすく伝えられているかどうか」という観点も重視します．

（科目履修登録について）

大学教育開発論は大学院共通科目ですので，受講を許可された方は申込フォームへのエントリーだけでなく，各自所属研究科の方法にしたがい，必ず科目履修登録を行って下さい．

（履修証）

所定の活動を修了した受講者には，履修証を交付します．履修証授与式があります．

その他

本シラバスおよび授業内容は，2014 年度には，2013 年度修了生有志による東大 FFP 授業改善勉強会による提案をもとに改訂される等，皆さんのご協力によって進化を続けているプログラムです．

東大 FFP には修了生のネットワークがあり，勉強会の企画実施等の活動が続けられています．適宜ご紹介しますので，どうぞ積極的にご参加下さい．

本授業は本学正規大学院生を対象に開講されている科目ですが，ポスドクや特任研究員の方々に対してはオブザーバーという制度で若干名の受け入れを行っています．お問い合わせフォーム（http://www.todaifd.com/contact/）にて個別にご相談ください．また，教員の方々のご見学も歓迎です．

受講生の皆さんへのメッセージ

本授業は，2013 年度からはじまった東京大学フューチャーファカルティプログラム(東大 FFP)の一部です．今回は第 6 期の募集となります． 教育について真剣に考え続けることで拓かれる自他の可能性を体感してみませんか．多様な研究領域から集まる仲間とともにアクティブに学びましょう．

また、本授業で扱う課題は，シラバス作成や模擬授業の実施など非常に実践的です．ある日非常勤を任されることになった，公募書類でシラバスを求められた，などにそのまま対応できるようなものを作成するつもりで取り組んでみましょう．

関連ホームページ

http://www.todaifd.com/ffp/

メールアドレス

utokyo_fd@he.u-tokyo.ac.jp

問い合わせの場合には「FFP 6 “氏名 ” “相談内容のトピック” 」という件名にしてください．

本コースのトピックの関係について

学生と教員を「ロッククライミングをしている先輩と後輩」に例え、教育とは、先輩（教員）が後輩（学生）が上に登るのを、自分で登り続けてゴール到達を促すことであると考えています。本プログラムでは、下記を相互に関連させながら進めていきます。

- 状況の理解（高等教育の現状）
- 学生のそもそものやる気（モチベーション）
- 教員から学生に渡して登る力にしてもらうもの（コースデザイン・シラバス、クラスデザイン、アクティブ・ラーニング、評価、模擬授業）
- 教員自身が登ること（キャリアパス）